





#### たけとりものがたり

昔、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山から竹を取って来て、いろいろなものを作って、売っていました。

ある日、おじいさんは不思議な光を出している竹を見て、切りました。中には小さいな、かわいいがかの子に「かぐや姫」という名前を付けて、大切に育てました。かぐや姫はどんどん大きくなって、とてもきれいになりました。

美しいかぐや姫のことを聞いて、関 たちが結婚を し込みに来ました。「どうぞ、かぐや 姫と結婚させてください。」おじいさんはかぐや姫に 男 たちの気持ちを伝えましたが、かぐや 姫は結婚したくないと言いました。

しかし、5人の関があきらめなかったので、「私がお願いした物を探して来た人と結婚 します。」と言って、関 たちを遠い国へ行かせました。かぐや姫が関 たちに頼んだ物は とても \*\*\* しくて、 探すのが大変した。

一人はインドへ仏の石の鉢を探しに行きました。

一人は東の海にある山へ行って、宝石でできた木の枝を取って来なければなりませんでした。 ・ したりは繋ったがに燃えないネズミの皮の着物を探しに中国へ行きました。一人は竜の首の玉を、

一人はつばめが持っている。 かし、3年過ぎても、誰も頼んだものを持ってくることができませんでした。 無理なことをして、病気になった男や死んでしまった男もいました。

天皇もかぐや姫が好きになり、妻にしたいと思いました。何回も手紙で気持ちを伝えましたが、「はい」と言わせることはできませんでした。

そして、また3年が過ぎて、夏になりました。かぐや姫は毎晩月を見て泣くようになりました。



「かぐや姫、どうしたの?」

「私はこの世界の者ではありません。月の世界から来たのです。次の満月の晩に月へ帰らなければなりません。それで、とても悲しいのです」

びっくりしたおじいさんは天皇に「かぐや姫を帰らせないでください。」とお願いしました。 満月の夜、天皇はたくさんの兵隊のおじいさんの家を守らせました。しかし、夜中に家の周り は不思議な光でいっぱいになって、兵隊たちは何も見えなくなりました。月から軍が迎えに 来たのです。かぐや姫が乗った月の軍は空を飛んで行きました。

ところで、かぐや姫は帰るときに、おじいさんたちに贈り物をしました。それは「木灰の薬」でした。しかし、おじいさんとおばあさんはとても悲しんで、薬を飲まないで、死んでしまいました。天皇はかぐや姫がいない世界で生きていても、意味がないと思って、篙い山の 上で薬を焼かせました。それから、その山は「木灰の山」から「富士の山」、そして、「富士山」という名前になったのです。



#### Từ mới

・ kì lạ ちゅう ちゃっける : đặt tên

光 : ánh sáng 宝石 : đá quý

が : công chúa 燃えないネズミの皮 : da chuột không cháy

てんのう 天皇 : thiên hoàng





## Cấu trúc ngữ pháp

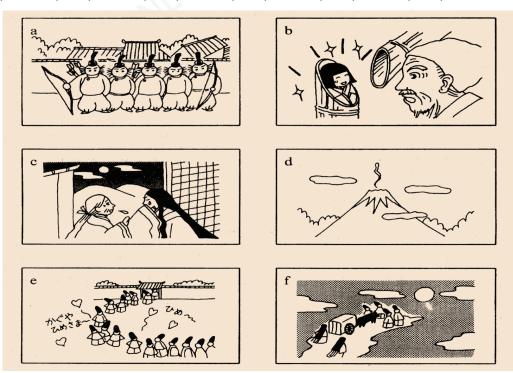
- 1. V ることができます:thể sai khiến
  - ・ 「私がお願いした物を探して来た人と結婚します」と言って、男たちを遠い国へ行かせました。
  - ・ 何回も手紙で気持ちを伝えましたが、「はい」と言わせることはできませんでした。
  - ・ どうぞ、かぐや姫と結婚させてください。

Ι

## 問1

#### a~fを話しの順に並べてください。

 $1 \quad ( \quad ) \rightarrow 2 \quad ( \quad ) \rightarrow 3 \quad ( \quad ) \rightarrow 4 \quad ( \quad ) \rightarrow 5 \quad ( \quad ) \rightarrow 6 \quad ( \quad )$ 



# 問2 正しい答えを選んでください。

- 1)かぐや姫は地球の人でしたか。
  - ①はい
- ②いいえ
- 2) かぐや姫は男 たちに何をさせましたか。
  - ①外国旅行をする
  - ②結婚の準備をする
  - ③珍しいものを探す



- 3)かぐや姫は天皇と結婚したいと思いましたか。
  - ①はい ②いいえ
- 4)かぐや姫はどうして悲しそうでしたか。
  - ①月が嫌いだから
  - ②おじいさんたちと別れなければならないから
  - ③地球の人と結婚できないから
- 5) どうして天皇は不死の薬を焼かせましたか。
  - ①おじいさんたちは死んだから
  - ②薬が嫌いだから
  - ③長生きしても、意味がないから
- II あなたの国に月に関係がある話がありますか。

